

2023年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2023年5月15日

上場会社名 株式会社クラウドワークス 上場取引所 東
 コード番号 3900 URL https://crowdworks.co.jp/
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 浩一郎
 問合せ先責任者(役職名) 取締役 (氏名) 月井 貴紹 (TEL) 03(6450)2926
 四半期報告書提出予定日 2023年5月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年9月期第2四半期の連結業績(2022年10月1日~2023年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		売上総利益		営業利益		EBITDA (Non-GAAP)		経常利益		親会社株主に帰属 する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期 第2四半期	6,153	20.7	2,911	27.4	533	△14.5	638	△5.9	575	△4.2	379	△4.6
2022年9月期 第2四半期	5,097	-	2,286	-	624	-	678	-	600	-	398	-

(注) 包括利益 2023年9月期第2四半期 372百万円(△7.5%) 2022年9月期第2四半期 401百万円(-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年9月期第2四半期	24.82	24.31
2022年9月期第2四半期	26.10	25.69

※EBITDA(Non-GAAP)は、財務会計上の数値(GAAP、日本基準)から非経常項目やその他特定の調整項目を一定のルールに基づいて控除もしくは調整したものであり、当社グループの恒常的な経営成績を理解するために有用な情報と判断しております。具体的には、株式報酬費用、減価償却費及びのれん償却費を中心に、当社グループが控除すべきと判断する一過性の利益や損失などを控除もしくは調整しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年9月期第2四半期	8,441	5,191	59.5
2022年9月期	7,638	4,666	59.9

(参考) 自己資本 2023年9月期第2四半期 5,021百万円 2022年9月期 4,576百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年9月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2023年9月期	-	0.00	-	-	-
2023年9月期(予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年9月期の連結業績予想(2022年10月1日~2023年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		売上総利益		営業利益		EBITDA (Non-GAAP)		経常利益		親会社株主に 帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通期	13,000	22.9	5,900	22.6	1,000	7.2	1,200	14.5	-	-	-	-

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年9月期2Q	15,440,560株	2022年9月期	15,271,460株
② 期末自己株式数	2023年9月期2Q	86株	2022年9月期	86株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年9月期2Q	15,306,668株	2022年9月期2Q	15,258,472株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	10
3. その他	12
継続企業の前提に関する重要事象等	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、本書提出日現在において判断したものであります。

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症に対する行動規制の緩和などにより国内の経済は持ち直しの兆候が見られる一方で、世界的な情勢不安による物価上昇や各国の金融政策などにより、国内外の経済の見通しは依然として不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻く事業環境としましては、日本の構造的な人手不足により、企業における採用難の状況が続いております。このような中、政府は労働移動の円滑化を目的として、企業における副業者や兼業者の活用を推進する施策を実行し、またフリーランスを企業と同じ「独立した意思のある存在」として認める特定受託事業者に係る取引の適正化等に関する法律が2023年4月28日に成立しました。コロナ禍以降の企業や個人の働き方に関する価値観が更に変化し、企業による外部のフリーランスの活用増加や、新たに副業や兼業に取り組むクラウドワーカーの増加による雇用形態にとらわれない働き方がより一層広がりを見せる事が予想されます。

こうした流れは当社グループにとって追い風であり、2023年3月末時点で登録ユーザー数は558.8万人（前年同期比+64.0万人）、登録クライアント数は90.5万社（前年同期比+11.0万社）となりました。

このような事業環境のもと、当社グループでは中長期目標「売上総利益CAGR20%以上10年継続」に追加し、新たに売上高300億円、EBITDA（Non-GAAP）25億円、営業利益年間成長率+10%以上に向けた成長戦略「YOSHIDA300」を掲げました。その実現に向けて、既存事業では主軸であるマッチング事業の社数と単価向上による売上成長と利益の拡大並びにSaaS事業の成長、M&Aでは当事業と親和性が高い事業への規律ある投資、人材育成では研修を通じた次期経営人材の輩出、そして人的資本経営による企業価値向上に取り組んでおります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の当社グループの業績は、売上高6,153,259千円（前年同期比20.7%増）、売上総利益は2,911,976千円（前年同期比27.4%増）、営業利益は533,930千円（前年同期比14.5%減）、EBITDA（Non-GAAP）は638,606千円（前年同期比5.9%減）、経常利益は575,200千円（前年同期比4.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は379,955千円（前年同期比4.6%減）となりました。

セグメント業績については、次のとおりであります。

① マッチング事業

当第2四半期連結累計期間のマッチング事業においては、構造的な人手不足に加えて、エンジニアやデザイナー等のIT人材の獲得競争が激化しており、週3～4日稼働のフリーランスのニーズや業務のデジタル化（DX）に伴うオンラインの事務アシスタントニーズが拡大しております。それに伴い、営業体制の強化による顧客獲得や既存顧客に向けた単価向上施策によって、GMV（流通取引総額）、売上高、売上総利益、はいずれも前年同期を上回りました。

取引額の総額を示すGMV（流通取引総額）は10,989,957千円（前年同期比17.9%増）、売上高は5,936,641千円（前年同期比18.7%増）、売上総利益は2,697,719千円（前年同期比23.2%増）、セグメント利益は650,444千円（前年同期比8.2%減）となりました。

② ビジネス向けSaaS事業

当第2四半期連結累計期間のビジネス向けSaaS事業においては、今般の人的資本経営の機運の高まりにより、組織やプロジェクトにおける工数管理と生産性のある見える化のニーズが高まったことで、大企業や成長企業を中心に工数管理ツール「クラウドログ」の導入が進んでおります。

このため、売上高および売上総利益は183,437千円（前年同期比94.2%増）、セグメント損失は147,334千円（前年同期のセグメント損失は87,014千円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は8,441,449千円となり、対前期末比で802,952千円増加いたしました。流動資産は対前期末比で622,651千円の増加となり、その主な内訳は、現金及び預金が302,059千円、売掛金が130,365千円、未収入金が147,246千円増加したものであります。固定資産は対前期末比で180,301千円の増加となり、その主な内訳は、のれんが123,343千円増加したものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債は3,250,384千円となり、対前期末比で278,128千円増加いたしました。流動負債は対前期末比で256,617千円の増加となり、その主な内訳は、未払金が32,799千円、未払法人税等が107,025千円、預り金が70,955千円増加したものであります。固定負債は対前期末比で21,510千円の増加となり、その主な内訳は、長期借入金が6,167千円増加したものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は5,191,065千円となり、対前期末比で524,824千円増加いたしました。純資産の増加の主な内訳は、親会社株主に帰属する四半期純利益379,955千円の計上および新株予約権が79,357千円増加したものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年9月期の業績予想につきましては、2022年11月14日に公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,117,461	5,419,520
売掛金	854,276	984,642
未収入金	853,530	1,000,776
営業投資有価証券	35,904	22,254
その他	44,629	99,085
貸倒引当金	△17,039	△14,866
流動資産合計	6,888,762	7,511,413
固定資産		
有形固定資産	63,697	78,349
無形固定資産		
のれん	91,120	214,463
その他	19,996	15,380
無形固定資産合計	111,116	229,843
投資その他の資産		
その他	575,414	622,448
貸倒引当金	△493	△604
投資その他の資産合計	574,920	621,843
固定資産合計	749,734	930,036
資産合計	7,638,497	8,441,449
負債の部		
流動負債		
短期借入金	103,036	104,560
未払金	937,767	970,567
未払法人税等	138,302	245,328
契約負債	294,306	321,050
預り金	1,184,805	1,255,760
その他	263,047	280,616
流動負債合計	2,921,266	3,177,883
固定負債		
長期借入金	20,240	26,407
その他	30,750	46,094
固定負債合計	50,990	72,501
負債合計	2,972,256	3,250,384
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,697,177	2,733,849
資本剰余金	2,655,177	2,691,849
利益剰余金	△798,301	△418,345
自己株式	△120	△120
株主資本合計	4,553,932	5,007,232
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	22,217	14,384
その他の包括利益累計額合計	22,217	14,384
新株予約権	90,091	169,448
純資産合計	4,666,240	5,191,065
負債純資産合計	7,638,497	8,441,449

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年10月1日 至2022年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年10月1日 至2023年3月31日)
売上高	5,097,726	6,153,259
売上原価	2,811,477	3,241,282
売上総利益	2,286,249	2,911,976
販売費及び一般管理費	1,661,721	2,378,046
営業利益	624,528	533,930
営業外収益		
預り金失効益	33,522	56,938
その他	11,076	2,136
営業外収益合計	44,599	59,075
営業外費用		
持分法による投資損失	67,702	7,555
為替差損	-	9,475
その他	814	774
営業外費用合計	68,516	17,805
経常利益	600,611	575,200
税金等調整前四半期純利益	600,611	575,200
法人税等	202,369	195,244
四半期純利益	398,242	379,955
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	398,242	379,955

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)
四半期純利益	398,242	379,955
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,883	△7,832
その他の包括利益合計	3,883	△7,832
四半期包括利益	402,125	372,123
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	402,125	372,123
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	600,611	575,200
減価償却費	17,867	10,430
のれん償却額	9,365	13,622
株式報酬費用	26,800	80,623
持分法による投資損益(△は益)	67,702	7,555
売上債権の増減額(△は増加)	△120,985	△104,286
未収入金の増減額(△は増加)	△123,095	△147,246
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△8,519	△2,062
未払金の増減額(△は減少)	123,123	△4,958
預り金の増減額(△は減少)	116,983	70,957
契約負債の増減額(△は減少)	36,641	22,271
その他	△26,622	6,385
小計	719,871	528,493
利息及び配当金の受取額	16	19
利息の支払額	△447	△611
法人税等の支払額	△83,986	△89,490
営業活動によるキャッシュ・フロー	635,453	438,410
投資活動によるキャッシュ・フロー		
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△81,229	△85,022
出資金の払込による支出	-	△60,062
その他	2,911	△4,579
投資活動によるキャッシュ・フロー	△78,318	△149,663
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△1,518	△25,556
株式の発行による収入	6	72,078
新株予約権の発行による収入	6,117	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,605	46,522
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	561,740	335,269
現金及び現金同等物の期首残高	4,219,115	5,117,461
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,780,855	5,452,730

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用につきましては、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、当該会計基準適用指針の適用が四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	調整額	四半期 連結損益 計算書 計上額
	マッチング	ビジネス 向けSaaS	計			
売上高						
一時点で移転される財又はサービス	849,423	-	849,423	37	-	849,460
一定の期間にわたり移転される財又はサービス	4,150,982	94,454	4,245,436	-	-	4,245,436
顧客との契約から生じる収益	5,000,405	94,454	5,094,859	37	-	5,094,896
その他の収益	-	-	-	2,829	-	2,829
(1)外部顧客への売上高	5,000,405	94,454	5,094,859	2,867	-	5,097,726
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	5,000,405	94,454	5,094,859	2,867	-	5,097,726
セグメント利益又は損失(△)	708,682	△87,014	621,668	2,859	-	624,528

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、新規開発事業等を含んでおりません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

マッチング事業セグメントにおいて、コデアル株式会社の全株式を取得し、同社を完全子会社化しております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、前第2四半期連結累計期間においては101,244千円であります。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	マッチング	ビジネス向 けSaaS	計			
売上高						
一時点で移転される財又は サービス	1,039,916	450	1,040,366	-	-	1,040,366
一定の期間にわたり移転さ れる財又はサービス	4,896,725	182,987	5,079,712	-	-	5,079,712
顧客との契約から生じる収 益	5,936,641	183,437	6,120,078	-	-	6,120,078
その他の収益	-	-	-	33,181	-	33,181
(1)外部顧客への売上高	5,936,641	183,437	6,120,078	33,181	-	6,153,259
(2)セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	5,936,641	183,437	6,120,078	33,181	-	6,153,259
セグメント利益 又は損失(△)	650,444	△147,334	503,109	30,820	-	533,930

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、新規開発事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

マッチング事業セグメントにおいて、Peaceful Morning株式会社の全株式を取得し、同社を完全子会社化しております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間においては136,965千円であります。

(重要な後発事象)

(株式の取得及び第三者割当増資引き受けによる連結子会社化)

当社は、2023年3月28日開催の取締役会において、株式会社シューマツワーカーの株式を既存株主からの譲り受け及び第三者割当増資の引き受けにより取得し、当該会社を連結子会社化することについて決議し、同日付で株式譲渡契約及び株式引受契約を締結いたしました。また、当契約に基づき、2023年4月5日に当該株式を譲り受けるとともに、第三者割当増資を引き受けました。

1. 株式取得の目的

当社は「個のためのインフラになる」をミッションに、新しい働き方の選択肢を社会に提供すべく、企業と個人とをオンライン上でつなぐ人材マッチングプラットフォームの拡大に努めてまいりました。

株式会社シューマツワーカーは2016年の設立以来、「ハタラクを自由化し人生の可能性を広げる」をミッションに新しい働き方を安定化／一般化すべく、優秀な副業人材と企業とをマッチングするプラットフォームを運営し、新しい日本のライフスタイルを創出しています。

当社は株式会社シューマツワーカーをグループ会社として迎えることにより、当社が注力する副業領域でのクライアントに対してより幅広い人材の提供が可能になることに加え、ワーカーに対してもより多くの働く機会を提供する事が可能になり、当社のビジョンである「日本で最もたくさんの人に報酬を届ける会社になる」の実現と収益機会の拡大に寄与すると考えております。

2. 株式取得の相手会社の名称

同社の創業者である松村 幸弥氏、エン・ジャパン株式会社、KVPシード・イノベーション1号投資事業有限責任組合、きらぼしキャピタル夢・はばたき1号投資事業有限責任組合、EEI4号イノベーション&インパクト投資事業有限責任組合及びその他株主（法人2社、ファンド1社、個人3名）より株式を取得しております。

3. 買収する会社の名称、事業内容、規模

- ①会社の名称：株式会社シューマツワーカー
- ②事業の内容：副業したいIT人材と企業のマッチングサービスの運営
- ③資本金 100,000千円

4. 株式取得の時期

2023年4月5日

5. 取得する株式数及び取得後の所有株式の状況

- | | |
|-----------|-------------|
| ①取得する株式の数 | 11,857株 |
| ②取得価額 | 1,159,911千円 |
| ③取得後の持分比率 | 62.67% |

6. 支払資金の調達方法及び支払方法

本株式取得の資金については、自己資金により充当しております。

(多額な資金の借入)

当社は、事業資金として下記の通り借入を実行しました。

①借入先	株式会社三菱UFJ銀行
②借入金額	200,000千円
③借入実行日	2023年4月5日
④借入期間	1年
⑤利率	基準金利＋スプレッド
⑥担保の有無	無担保・無保証
⑦財務制限条項	なし

①借入金	株式会社みずほ銀行
②借入金額	200,000千円
③借入実行日	2023年4月28日
④借入期間	1年
⑤利率	基準金利＋スプレッド
⑥担保の有無	無担保・無保証
⑦財務制限条項	なし

①借入金	楽天銀行株式会社
②借入金額	200,000千円
③借入実行日	2023年4月28日
④借入期間	1年
⑤利率	基準金利＋スプレッド
⑥担保の有無	無担保・無保証
⑦財務制限条項	なし

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等
該当事項はありません。